

疾走する ノンパッケージ ミュージック

編集部

Photo: Nakamura Tōhru (P.309)

「ついに21世紀！」ということで、「どうすれば21世紀っぽくなれるのか？」とお悩みの音楽ファンの皆さんのために、21世紀の音楽シーンがどうなっていくのかをさまざまな角度から大予想してみようと思う。

さて、パソコンの前に座ったままでヒット曲が買えるようになって久しいのだが、皆さんは『音楽配信』なる呼び方がどうも“堅い”と感じることはないだろうか？ そこで提案したいのが『EMD』という呼び方だ。これは「エレクトロニック・ミュージック・ディストリビューション」の略で音楽配信の直訳

ではあるが、業界関係者の間ではかなり定着した呼び方なのだ。というわけで、この企画ではEMDが随所に登場するのだが、本編ではさらに、ブロードバンド時代ならではのインターネットの利用法に始まり、ケータイ本命のワイアレスに大穴出現？＝地上デジタルラジオ放送、音楽録音メディアのミュート現象？＝MDLP、権利問題最前線＝安藤和宏氏インタビューなどなど、約3年先までを凝縮したために謎のキーワードが続出するので、これらの単語を使いこなして大いに「通」ぶっていただければ幸いだ。

ダイヤルアップよサヨウナラ！ ブロードバンドの普及で 開花するEMD2001

IT政策のおかげで、日本の通信コストにもようやくメスが入りそうだ。できれば128k以上で月額2,000円以下のリーズナブルなサービスを……というのは叶わぬ夢かもしれないが、政府および関連企業の努力に大きな期待を寄せつつ、安い常時接続環境をダラダラと使い倒す日々を夢見る音楽ファンにオススメのサイトを紹介しよう。

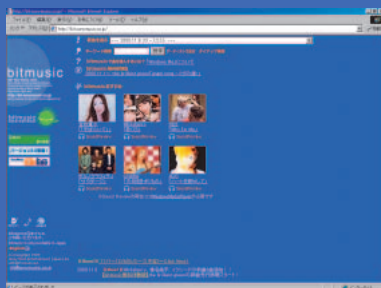
Case1

とにかく安く楽しみたい

無料ダウンロード&オンデマンドラジオ

レンタルより安い！ 「無料ダウンロード」

とにかくショップに行くヒマがない音楽ユーザーの強い味方となり得るのがEMDサービスだ。ダウンロード購入だけではなくCD通販を利用する場合にも、ショップに出向くことなく試聴できるようになり、本当に便利である。2年ほど前までは音質の悪いストリーム試聴しかなかったが、いまでは高音質の試聴音源が無料ダウンロードできるサイトに人気が集まっている。しかも有名なアーティストの曲も頻繁に登場するので、これを利用しない手はない。日本では残念ながら曲の一部のみ試聴できる音源が主流だが、アメリカにはフルバージョン音源の無料ダウンロードを常設している太っ腹なサイトもある。これらのサイトをマメにチェックしていると、結構な曲数を入手できてしまう。ただし、試聴



bit.sonymusic.co.jp

データのほとんどは再生期限付きなので、ハードディスクの肥しとならぬよう、期限切れのデータは速やかに削除することをおススメする。ちなみに、現状における代表的な無料ダウンロードサイトは以下のとおりだ。

Amazon.com

Jump www.amazon.com

(Browse→Music→Free Downloads)

ビッグアーティストの新作がフルバージョンでダウンロードできる。ただし、一部の曲は日本から利用できない。

対応ソフト：LQ

@MUSIC

Jump atmusic.avexnet.or.jp

エイベックスの人気アーティストの新作が、CD発売直前に登場する。日によって無料ダウンロードのない場合もある。

対応ソフト：LQ、LG

bitmusic

Jump bit.sonymusic.co.jp

人気アーティストや新人など、ソニー・ミュージックのイチオ押し新曲が、CD発売直前に登場する。常時2〜3曲用意されている。

対応ソフト：LG、WMP

K Music

Jump www.kingrecords.co.jp/kmusic/

人気バンドSNAIL RAMPなどキングレコードのヒット曲が常時5〜6曲用意されている。

対応ソフト：LG

can-d.com

Jump www.can-d.com/download/

ポニーキャニオンの新人ユニット「ふれあい」の曲が常設されている。(2000年11月末現在)

対応ソフト：LG

※LQ：Liquid Player、WMP：Windows Media Player、LG：LabelGate Player

やっと思える！ 「ネットラジオ」

洋楽ファンなら常時接続によって受けられる恩恵としてもっとも期待できるのが、ストリームによるラジオ放送だろう。現在、日本で洋楽専門ラジオ局と言えば、有線放送や駐在米軍向けを除くと東京のInterFMくらいではないだろうか。そこでオススメしたいのが、アメリカに多数存在する音楽専門のネットラジオ局だ。常時接続環境を用意すれば、これらの番組がいつでも聴き放題となる。ジャンル限定の局も多いので、日本のラジオ局ではあり得ないディープな選曲で思う存分楽しめる。また、聴いている曲のCDを購入するサイトへのリンクもあり、日本でもこのようなサービスを実現すれば洋楽CDの売上が多少は増えるのではないだろうか？



radio.sonicnet

Jump radio.sonicnet.com

13ジャンルでA73ものチャンネルがそろっているネットラジオのポータルサイト。取りあえずここだけで当分、楽しめるはず。

Case2

本格始動はいつ?

待ってました!「地上波デジタル」

音楽配信できるのか? 「地上波デジタル放送」

2002年より本放送開始となる地上波デジタル放送は、最近のアンケートによれば知名度はかなり低いらしい。ところが、郵政省の計画では現在のアナログ方式によるテレビ放送は、2010年に打ち切る予定となっている。つまり、全国のご家庭は、それまでにテレビを買い替えなければならない訳だから、これは一大事だ……。

いや、実はテレビの問題はどうでもよくて、注目したいのは地上波デジタルの「音声放送」、つまりラジオのほうなのだ。郵政省のサイト www.mpt.go.jp にある広報資料の冒頭を原文どおりに紹介すると、「CD並の高音質ステレオ音声放送を中心に、データ・静止画等も提供できる多彩な放送が移動体（自動車・歩行者等）においても受信可能（CD並音質を144kbpsで実現）」となっている。さらに同資料によれば、1つの地上波デジタルラジオ放送に必要な周波数帯域（1セグメント）で595kbpsの情報レートという仕様だ。ということは「CD並の高音質ステレオ放送」を「144kbpsで実現」し、余った451kbpsの帯域で「データ・静止画等も提供」でき、「移動体においても受信可能」と解釈できる。これはイカかも……。膨らむ一方の妄想を落ち着けるべく、郵政省へのインタビューを敢行した。

準備期間はじゅくりと 「郵政省が描くデジタル化計画」

現在の地上テレビジョン放送は「VHF」という周波数帯域を使用していますが、2003年から開始される予定の地上デジタルテレビジョン放送では「UHF」

という周波数帯域が使用されます。デジタル放送対応のテレビ受像機が普及完了したものと確認された時点で、現在のアナログ方式によるテレビ放送は終了する予定です。その後、VHFの帯域は地上デジタル音声放送専用となります。現在のテレビ放送1チャンネル分に相当する帯域を13個に分割し、そのなかの1個（セグメント）が、地上デジタル音声放送の1チャンネル分となります。CD並の高音質ステレオ放送を144kbpsで実現するので、1セグメント（595kbps）で最大4つの番組を送信できます。また、3セグメントを使用して2Mbps近くの送信も行えます。試験放送については、2000年中に免許を受けた「実用化試験局」による準備が整い次第開始されますが、おそらく2002から3年になると思います。実用化試験局は多数の企業が参画するコンソーシアムによって開設され、東京都と大阪府の2地域で試験放送を行います。免許人となるコ

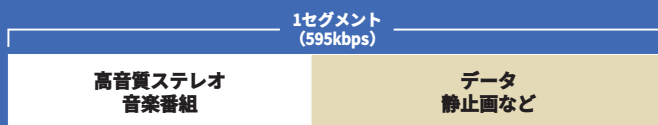
ンソーシアムは既存の放送事業者が中心となりますが、他業種の参入を排除せず、デジタル放送の特性を生かした多様なサービスについて試験放送が行われるよう配慮します。また、実用化を目指した試験放送なので、広告のほかには有料番組も認める予定です。よって、決済の仕組みを作ることも重要だと思います。試験放送で使用される受信機の傾向としては移動体向けのサービスに注目が集まっていて、ディスプレイ付きカーステレオのような大型の機種でスタートし、LSI化が実現すれば携帯電話などに搭載されていくとの構想を参画予定企業から聞いています。テレビ放送だけでなくラジオ放送もデジタル化によって活性化されることを期待しています。

（郵政省放送行政局放送技術政策課／課長補佐／熊谷 誠氏・近藤玲子氏、同局放送政策課／課長補佐／和知隆寿氏・談）

www.mpt.go.jp/pressrelease/japanese/housou/000922j702.html

▼地上デジタル音声放送の仕組み

CD並の高音質ステレオ音声放送を中心に、データ・静止画等も提供できる多彩な放送が移動体（自動車・歩行者等）においても受信可能（CD並音質を144kbpsで実現）。



移動体向けの場合680kbps
(1セグメント) または2.0Mbps
(3セグメント) 程度まで受信可能



Case3

どのEMDソフトを使う？

合わせ一本！「EMDソフト+PD」

音楽ユーザーが21世紀らしさを演出する際に欠かせないEMDソフトおよびそれらに対応する携帯プレーヤー（PD）について研究していこう。なお、ここではもっともニーズが多いと思われる「J-POPのヒット曲がEMDで利用できるもの」という前提で進めさせてさせていただくので悪しからず。

まず、「聴くのは洋楽中心なので、J-POPはエイベックスだけで充分」という人にはLiquid Player（LQ）がオススメ。昨年は椎名林檎の先行無料配信にも使われ話題となったので、一応インストールしておきたいソフトだ。マックユーザーならLQしか選択肢はない。対応する携帯プレーヤーは三洋やTDKから発売中だが、マックOSには対応していない。

次にソフト普及率ダントツのWindows Media Player（WMP）。フルバージョンを購入できる楽曲数はまだ少ないが、昨年は「ゆず」やイエモンなどの先行無料配信が行われ話題となった。WMPに対応するPDは残念ながら出ていない。なお、マック対応のWMPもベータ版ながらリリースされているが、圧縮方式の都合で日

本のEMDサイトでは使えないところが多い。最後はLabelGate Player（LG）。現時点では有料、無料ともに利用できるヒット曲がもっとも多い。対応するPDはソニーとシャープから発売されている。なお、こちらはPD、ソフトともにマックOSに対応していない。以上、いずれの方式に關しても、マックユーザーを救っていただきたいということと、やや割高感のあるPDの価格について努力を期待している。

▼ EMDソフト別の提携レーベル

EMDソフト	利用できるレコード会社など	ポータルサイト
Liquid Audio	エイベックス、P-Vine、ヤマハミュージックコミュニケーションズ、STARDUST-TABLE、@Nifty DMS、@PIA TRACKS他	www.liquidaudio.co.jp
Windows Media Player	日本コロムビア、ビクターエンタテインメント、キングレコード、日本クラウン、徳間ジャパンコミュニケーションズ、ポニーキャニオン、バップ、メルダック、プロシード、セーニャ・アンド・カンパニー他	www.arcstarmusic.com
LabelGate Player	キングレコード、ソニー・ミュージックエンタテインメント、ポニーキャニオン、エイベックス	www.labelgate.com

本EMDソフトでは使えないところが多い。

最後はLabelGate Player（LG）。現時点では有料、無料ともに利用できるヒット曲がもっとも多い。対応するPDはソニーとシャープから発売されている。なお、こちらはPD、ソフトともにマックOSに対応していない。以上、いずれの方式に關しても、マックユーザーを救っていただきたいということと、やや割高感のあるPDの価格について努力を期待している。

Case3

MDはどうなるの？

音楽用メディアの王者健在か？

音楽以外に向いてる？ 「次世代記録メディア」

MP3とともに登場し音楽用記録メディアの進化を予感させたフラッシュメモリーだが、今後の普及については、現在1万数千円という価格がどこまで下がるのかという疑問に対する明確な回答が必要だろう。もしかすると、メモリスティック、SDカード、セキュアMMCなどの権利保護機能付きフラッシュメモリーは、不正コピーによる損害が以前から問題となっていた高価なアプリケーションソフトの流通やセキュリティ対策に向いているのかもしれない。

EMDサポートはアリか？ 「MDLP」

ではEMD時代の音楽用記録メディアとして本命と呼べるものはなにか？ それは

MDになりそうだ。いまやどこでも買えてしかも安い、あのMDが大きな進化を遂げたのだ。2000年11月にソニーやシャープから発売された新型の携帯MDレコーダーは、1枚のMDに録音できる時間がいままでの2倍以上になっている。なぜ、そんなことができるのかと言うと、圧縮方式が変わったからだ。新しいMDレコーダーでは、インターネットでのEMDのためにソニーが開発した「ATRAC3」と呼ばれる圧縮方式が採用されていて、MD録音に必要な容量がいままでの半以下になっている。この新しいMD録音の規格は「MDLP」と呼ばれ、MDLP対応のプレーヤーは従来のMDもちゃんと聴けるようになっている。現在は音楽ファイルを転送できる機種がないのだが、これはMDがSDMIの仕様を満たしていないためと思われる。SDMIの仕様では記録メディア側でも権利保護機能をサポートすることが求められているのだが、MDが最初に発売された時点では、2世代目のコピーを防止するための機



MDウォークマン
MZ-E500
(ソニーマーケティング株式会社)



MDポータブル
レコーダー
MD-MT77-S
(シャープ株式会社)

能をサポートしていればよかったので仕方がないだろう。しかし、パソコンやケータイでダウンロードした音楽をMDLPで書き込めると、手軽にバックアップが済むのでたいへん便利になることは間違いない。日本では音楽用記録メディアのデファクトとしてかなり普及しているMDだからこそ、EMDの利用者も格段に増え、その結果、コンテンツの充実につながることも予想される。なんとか解決されるよう期待したい。

セプティマ・レイの安藤和宏氏に聞く 「EMD時代の新ルール」



安藤和宏（あんどう・かずひろ）

株式会社セプティマ・レイ代表取締役
音楽ビジネスおよび著作権のコンサルティングを
行う。同氏の『よくわかる音楽著作権ビジネス』
（リットーミュージック刊）は音楽著作権のバイブル
として広く愛読されている。

Q：SDMI準拠のEMDシステムについて、一般ユーザーより「セキュリティが強すぎる」との意見がありますが、ある程度のセキュリティ緩和は権利者に受け入れられるものなのでしょうか？

A：まず、SDMIには法律的拘束力はなく、デファクトスタンダードを決めるためのプロジェクトなので、広い賛同が得られなければ意味がないものです。実際に、SDMI準拠のセキュリティ技術は本当に必要なものなのか？ という大前提の疑問も呈されていて、機器間での移動に制約があるというのは私もナンセンスだと思います。そこで、以前から著作権の学会では超流通（※1）という概念が注目されています。これは、暗号化されたコンテンツのコピーは自由にして、ユーザーは使用時、使用方法に応じて対価を支払い、複合鍵を入手するという方法です。ただし、現在の著作権法では、使用に対する請求ができないので法改正が必要です。つまり買ったCDを誰かに貸した場合、借り手は聴くためにお金を払う必要がないのですが、暗号化されたデータを受取った人がセキュリティを破って曲を聴いた場合、違法となるようにする必要がありますからです。

Q：日本でもNapsterが話題となっていますが、不正使用について完全に抑止することは難しいとして、有効と思われる対応策はあるのでしょうか？

A：たとえば正規品と無料海賊版が並べられていたら誰でもタダの方を持っていくでしょう。つまり、正規の楽曲データにくらセキュリティをかけても、CDから作られた無料コピーがNapsterで手に入るなら、皆そちらへ行ってしまうということです。ですから、大元であるCDにセキュリティをかけて海賊版の根源を断つしかないと思います。しかし、過去に発売されたCDについては、もう止められません。また、Napster問題では日米の「お国柄」が出ていると思います。アメリカ人はキーボード慣れしているため、パソコンの普及が早く、またCDを入手しにくい環境で暮らす人も多いので、あれだけ広がったのではないのでしょうか。日本ではCDを買うのも楽ですし、なにより日本人は、周囲と比較して自分で自分を抑止する傾向が強いのので、通信環境がよくなっても大丈夫だと思います。しかし、性善説でEMDを開放することは不可能だと思います。一方、日本では著作権法の知識など到底あるとは思えない14才の少年がおもしろ半分に行った違法行為に対し、見せしめのために補導するなど、悪意の有無を区別しないで取り締まるケースもありますが、これはどうかと思います。

Q：定額制のEMDサービスを行うとした場合、利用曲数を無制限にすると、1人

あたりの利用曲数が増えるほど1曲の単価が下がってしまいます。やはり定額制EMDサービスでは利用曲数を制限するのが望ましいのでしょうか？

A：アナログ盤のアルバムは7～8曲程度でしたが、CDになって15曲位収録されるようになり、1曲ごとの印税が目減りしたと言われています。最近ではハードメーカーの方向性として、ストレージ（蓄積メディア）の大容量化が進んでいるようなので、100曲以上収録できるメディアが登場した場合どうなるのか？ という懸念はあります。この件に関しては「もっと売れば良い」という楽観的意見や「1人が1日に聴ける曲数には限界があるだろう」とする悲観的意見までさまざまです。定額制の実例として携帯電話の着信音販売がありますが、「曲数制限あり」ということで権利者側に受け入れられましたので、曲数制限付きが支持されると思います。もし無制限で行う場合は、1曲あたりの最低保証リスクを事業者が負うべきでしょう。

※1：1983年に筑波大学の森亮一名誉教授によって発明された概念。

「超流通とは、フリーウェアやシェアウェアで実現されているような、ユーザにとっての快適な環境を有料のソフトウェア製品に対して実現し、且つ開発元や販売元の利益を保護するもの。超流通では、ソフトウェアを所有する事に対価を支払うのではなく使用する事に対して料金を支払う。」

www.sda.k.tsukuba-tech.ac.jp/SdA/Glossary.html

より抜粋

いま、スタートラインに立つEMD

レコードが発明されてから百数十年が経過し、ついに「音」は0と1の塊となって地球上を飛び交う時代を迎えたのだが、次の100年後に向かうスタートラインを占うために企画した今回の内容は、断片的な情報の羅列ながらも将来普及するフォーマットの「種」となるものが含まれているはずだ。また、今回触れなかったネットワーク家電に関しては、今後のブロードバンド化にともなって発売ラッシュを向かえることになるだろう。特に常時接続でなければ意味がないために不発に終わったセットトップボックスの復活や、ホームネットワークサーバーに豹変すると言われているゲーム機などによって、テレビとリモコンの組み合わせで完結するパソコン不要の環境が整備され、そこから派生す

る多様なサービスは、家庭環境にもかなりの変化を与えることになるだろう。もちろん音楽も例外ではないはずで、どのようなサービスが登場するのが非常に楽しみなところだ。色々と手軽になることで、現在よりも音楽を聴く回数は増えるのではないだろうか。

権利問題や流通問題など、それぞれの分野で進み過ぎの部分と守り過ぎの部分があるのだが、アナログからCDへの移行が混乱しながらも徐々に落ち着いていったのと同様に、転がり続けることによって岩が丸くなるかのごとく、気が付けばごく普通にEMDが利用されている状況になるのだろう。

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp